

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポートハウス おむすび		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年1月6日		～ 2026年1月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・新しい事業所に移転して、スペース的に広がった。1人当たりのスペースは、余裕があって十二分に活動するスペースが確保できる	・ワンフロアのため、仕切りや壁がなく、個室や個別対応の空間が取れない為、ロッカーや収納ボックスの活用及び配置において空間作りの調整を行っている	・空間が広がった分、死角の多くなるため、仕切り等で区切った空間での職員の配置や活動の場所の常に意識して日々の活動計画を立てていく
2	・職員用の事務所スペースを確保できることで、各個人での業務中でも、他の職員が話題にする児童の様子や支援内容、日々の様子を耳にしながら意識して、業務あたることできる(また、別室が与えられることで、休憩時間を確保でき、業務の効率化にも繋がっている)	・定期的に行うミーティングの他にも、毎日の引継ぎ等も職員が互いに顔や状態を確認しながら引継ぎができる環境としており、意思疎通の確認を意識できていると言える(休憩時は、子どもたちと少し距離置いてきちんと休みことを互いに声かけや促しを意識できる環境をつくっている)	・人員の部分でもなかなかむづかしい部分はあるが、全職員(特に管理者や児発管)が互いに意識する環境を作ることが、全体の業務アップにもつながるため、さらに自分自身の業務内容の振り返りとすり合わせを行うことが必要といえる
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人員の不足の部分から、活動の制限が余儀なくされている	・できるスタッフと難しいスタッフの力量の差が顕著に見てわかる	・新しい人材の募集 ・できる範囲での活動内容の調整(基本的な目標は変更せず、代替案の実施など) ・職員ひとりひとりの支援スキルの向上(研修参加や実体験の数を増やす等)
2	・公的な関係機関や関係事業所との連携の仕方がまだまだ足りない	・児発管や管理者レベルでの交流や連携が多い。参加するメンバーも固定化しがちである	・メンバーや内容が決まっている連携等は、その状況を他職員にも共有把握を促していく。必要であれば、保育士や児童指導員レベルの参加も促していく
3	・情報発信の不足	・保護者への情報発信は、SMSやInstagram、HUG(支援システム)等を活用して行っているが、うまく活用できていない	・日々の活動の情報発信は保護者向けに可能となっているため、それ以外にも、研修や興味のある情報や交流会の実施なども継続して提示及び実施に繋げていく ・移転後の新事業所についても、親子活動や面談、イベント等においても地域や保護者向けの情報発信も続けていく